

三島の教育

令和7年度

(2025年度)

三島市教育委員会

まえがき

VUCAと呼ばれる困難な時代にあって、全ての人が生涯にわたり豊かで幸せな生活を送るためには、学びによって培われる生きる力が一層重要なものになってまいります。

今後の教育の在り方といたしましては、このようにますます急速に変化していく社会に対応することができる力を養っていくため、これまでに培った知見や経験、コロナ禍で得られた教訓も上手に活かし、創意工夫を重ねながら、AIやオンライン等も活用した学びに挑戦し続けることが求められます。

そのような中、当市では令和5年3月に「第2期三島市教育振興基本計画」を策定し、「健やかで 幸せな 未来を切り拓く 人づくり」という基本理念のもとに、三島市の教育がさらに充実したものとなるよう、学校教育及び社会教育の両面から各種施策を進めております。

今後とも、三島の将来を担う子どもたちが「三島で育ってよかったです」と感じられるよう、また、人生100年時代に向けて市民一人ひとりのウェルビーイングの向上を目指して、社会総がかりの教育に取り組んでまいります。

ここに、関係各位のさらなるご理解、ご協力をいただけますよう、この小冊子をとりまとめましたので、ご教示とご鞭撻を賜れば幸いに存じます。

令和7年7月

三島市教育委員会 教育長 小塚 英幸

目次

I.	市政のあらまし
1.	位置・地勢・人口 1
2.	沿革 1
3.	財政 2
II.	教育委員会
1.	教育長及び教育委員 3
2.	教育委員会所管組織一覧 3
3.	事務分掌 4
III.	教育に関する大綱
1.	教育に関する大綱 6
IV.	教育財政
1.	令和7年度教育費予算（当初） 8
2.	年度別教育費の執行状況 8
3.	園児・児童・生徒の人口に占める割合 9
4.	園児・児童・生徒1人当たり及び 人口・世帯割の教育費 9
V.	教育施設
1.	学校要覧 10
(1)	小学校 10
(2)	中学校 10
(3)	幼稚園 10
2.	学校施設 12
(1)	小学校 12
(2)	中学校 12
(3)	幼稚園 12
3.	その他教育関連施設 14
4.	令和6年度主な学校施設の整備等 14
5.	令和7年度主な学校施設の整備等 14

VI.	学校教育
1.	令和7年度三島市の学校教育 15
2.	遠藤奨学金について 18
3.	令和6年度転入・転出児童生徒数 19
4.	令和6年度中学校卒業生の進路 19
5.	令和6年度就学奨励援助 20
6.	令和6年度日本スポーツ振興センター掛金 及び給付金 20
7.	学校給食 21
VII.	社会教育（生涯学習）
1.	社会教育施策の重点 23
2.	委員会・団体の構成 23
3.	令和7年度の重点事業 23
4.	生涯学習事業 24
5.	生涯学習推進事業 24
6.	リカレント教育推進事業 24
7.	家庭教育事業 24
8.	成人教育事業 25
9.	青少年対策事業 25
10.	青少年教育事業 27
11.	児童センター事業 29
12.	学校・家庭・地域連携協力推進事業 29
VIII.	文化財
1.	令和7年度の施策の重点 31
2.	文化財保護 31
IX.	社会教育施設
1.	三島市民生涯学習センター 37
2.	図書館 40
3.	公民館 42
(1)	中郷公民館 43
(2)	坂公民館 43
(3)	北上公民館 44
(4)	錦田公民館 46
4.	箱根の里 47
5.	郷土資料館 49

I 市政のあらまし

1 位置・地勢・人口

(1) 市役所の位置

東 経	138度55分
北 緯	35度07分
標 高	24.9m

(2) 地 勢

東 西	11.107km
南 北	13.242km
面 積	62.02km ²

2 沿革

箱根西麓に位置する三島市は、気候・風土など自然条件に恵まれていることから、市内の各所で人々の生活の跡である遺跡を見ることができる。箱根西麓では3万年以上前の石器が発見されており、旧石器・縄文時代の遺跡が多い。また、平野部では弥生時代の遺跡が多く、人々が環境に適した生活をおくっていたことがわかる。

天武天皇の飛鳥時代(680年)に伊豆国の国府が置かれ、奈良時代天平年間には国分寺・国分尼寺が建立されるなど、三島はこの地方の行政・教育文化・交通の要衝であったことがうかがえる。

源頼朝が、挙兵(1180年)に際し戦勝祈願をしたと伝わる三嶋大社は、鎌倉・室町時代、武家の崇敬が篤く、また庶民の信仰をあつめたことで知られている。

戦国時代末期に築城された山中城は、豊臣秀吉の小田原攻めの際(1590年)に落城、現在は国指定の史跡公園として整備されている。

三島は江戸時代には幕府直轄の天領となり、1世紀半の間、代官所が置かれていた。東海道とともに繁栄した三島宿は、五十三次の中でも大きな宿場の一つであり、70軒以上の旅籠が軒を連ねていた。さらに門前町としての性格もあって往時は繁華を極めたという。

江戸時代、三島にはいくつかの漢学塾と相当数の寺子屋があった。明治に入ると三島宿では伊豆で最も早く小学校が設立され、以後、北上、錦田、中郷地域も続いたことは、住民の伝統的な向学心の証であろう。

明治19年(1886年)には君沢田方郡役所が置かれ、明治22年(1889年)市制・町村制の施行により三島町となり、同22年(1889年)、県下で最初の公立幼稚園が三島・静岡・掛川に開園した。

(3) 人 口

(令和7年5月31日現在)

男	50,877人
女	53,360人
計	104,237人
世帯数	50,054世帯

(人口、世帯数には外国人を含む)

大正4年(1915年)3月、三島町立図書館開館。大正8年(1919年)から9年(1920年)に野戦重砲兵連隊が横須賀及び和歌山から三島に移転してきた。昭和9年(1934年)丹那トンネルが開通して三島駅が設置されると、宿場の疲弊により一時沈滞していた街にも活気が戻った。

昭和10年(1935年)北上村を編入、昭和16年(1941年)には錦田村と合併して三島市が誕生した。さらに昭和29年(1954年)には中郷村を編入し総面積 62.02km²の市域となり、現在に至っている。

昭和32年(1957年)米国カリフォルニア州のパサディナ市と全国で4番目の姉妹都市縁組を結び、国際化時代の先達として今も着実に交流を続けている。

昭和39年(1964年)三島・沼津地域に計画された石油化学コンビナートの進出を阻止。昭和44年(1969年)新幹線三島駅の開業等による経済圏・生活圏の拡大と相まって人口が急増。さらに、新幹線ひかり号の停車や、平成21年(2009年)7月の東駿河湾環状線一部供用開始、首都圏への直通高速バスの運行開始により、伊豆・北駿の玄関口、交通の結節点として、県東部の中核的都市として発展を続けている。

平成3年(1991年)4月、市制施行50周年を迎えて、ニュージーランドのニュープリマス市との姉妹都市縁組を結び、さらに平成9年(1997年)5月には、かねてから交流を重ねてきた中国浙江省麗水市と友好都市縁組を結んだ。

令和3年(2021年)4月には市制80周年を迎え、現在市内には、幼・小・中・高校のほか、大学院大学でもある国立遺伝学研究所をはじめ、日本大学国際関係学部・短期大学部、順天堂大学保健看護学部、放送大学静岡学習センター、佐野美術館等多くの教育文化施設が設置され、市民文化会館や市民生涯学習センターを教養文化の拠点として、せせらぎと緑と活力あふれる幸せ実感都市を目指している。

3 財政

令和7年度一般会計歳入歳出予算（当初）

(単位:千円)

歳 入	
費 　目	予 算 額
市税	18,686,400
地方譲与税	278,500
利子割交付金	15,000
配当割交付金	150,000
株式等譲渡所得割交付金	200,000
法人事業税交付金	310,000
地方消費税交付金	3,080,000
ゴルフ場利用税交付金	50,000
自動車取得税交付金	1
環境性能割交付金	50,000
地方特例交付金	115,000
地方交付税	3,000,000
交通安全対策特別交付金	16,666
分担金及び負担金	90,597
使用料及び手数料	582,899
国庫支出金	10,012,603
県支出金	3,844,906
財産収入	443,369
寄附金	542,408
繰入金	1,215,237
繰越金	550,000
諸収入	1,220,914
市債	3,895,500
歳 入 合 計	48,350,000

(単位:千円)

歳 出	
費 　目	予 算 額
議会費	255,725
総務費	5,505,225
民生費	16,946,621
衛生費	4,511,479
労働費	40,437
農林費	348,848
商工費	1,052,682
土木費	8,145,356
消防費	2,149,831
教育費	5,625,422
災害復旧費	1
公債費	3,738,373
予備費	30,000
歳 出 合 計	48,350,000

